

C 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。
HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 二 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一〜三となっています。
- 三 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 四 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 五 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 六 この問題冊子は持ち帰ってください。
- 七

マーク・センス法についての注意

- マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。
- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
 - 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
 - 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | ○ | ○ | ● | ○ | ○ |

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

人の数だけの顔がある。すなわちすべての人はそれぞれの顔をもち、すべての顔はほかのすべての顔と異なっている。だが人は単にそう思っているにすぎない。

人はけつして自分の顔を見ることができない。人は古ぼけた一枚の写真を私につきつけ、これが私の顔だという。だが幸いなことに、そこに見られる顔が私の顔であることを保証するものは何一つない。それは見知らぬ他人の顔である。そうでなければ、どうして写真を撮ろうなどという気になるであろうか。撮影せられた顔がけつして帰ってくるのではない過去のものであり、容易に否定することのできる一瞬間のものであるということがわれわれを安堵せしめる。つまり写真は実際よりもよくうつるか悪くうつるかどちらかなのである。それならばその実際の顔はどこにあるのか。鏡のなかに。しかしこの怖るべき機構も、われわれの顔に関しては写真と同様、その能力ないし効果を十分に發揮するようにはけつして利用されない。無から有が生ずるように、何の前触れもなく不意に鏡の奥にあらわれてくるのは、いつも である。鏡は顔をうつさない。鏡がうつし出すのは髭のび具合であり、白粉の濃さであり、口紅の色である。泉のなかのもうひとりの自分の顔に魅せられながらどうしてもそれを捉えることができず、ついに一茎の花と化したナルシスの物語は、鏡のなかに自分の顔を見てしまった者の悲劇であろう。われわれは自分の顔を見ることができず、また見ることを願いはしないのである。しかしナルシスはやはりわれわれのうちにも住んでおり、住んでおればこそわれわれは自分の顔を見ることを怖れるのである。

人は顔をもっているのではない、もっていると思っているのである。この簡単な事実のなかにもすでに顔というものの本質が顔を見せている。顔というもの、しかし顔はものではない、ものならばもつこともできよう、見ることができよう。しかし人は顔をもつことも見ることもできない。人が顔をもつのではなく、顔が人なのであるから。もつとも、この事情は顔に限らず、身体そのものについていわれることであろう。デカルトがいったよ

うに「私は水先案内が船に乗っているように、ただ私の身体のうち宿っているのみではない」のである。しかし手足はなおわれわれにとつて道具という意味を、したがってまたものという意味を脱してはいない。人はやはり手足をもつのである。それゆえに壺には手があり机には足がある。しかし顔のあるものはない。⁽³⁾ 顔を合わせる、顔出しする、顔つなぎ、顔触れ、顔みせ、これらの言葉において顔は人間そのものを意味している。しかしこれらの言葉がすでに示しているように、顔は単に人間の本質を意味しているのではなく、まさに人間の本質が顔にあらわれ、他人の顔と合わされ、つながり、触れあい、他人のなかに出され、他人に見られるという点にあることを意味している。それゆえに顔はまた体面であり面目である。顔を立てる、顔を汚す、顔が潰れる、顔に泥を塗る、顔にかかわる、顔向けができぬ、合わす顔がない、など。顔はおもてであり、表面であり、表面は外面であるが、心はまた内面である。顔において内部と外部とは一つである。面の皮が厚いか鉄面皮とかという言葉があるにしても、それらの言葉は顔が外被であることを意味するよりは、むしろ顔が鉄の面ではなく、その皮が本来薄いものであることを意味しており、それゆえに面の皮が厚いか鉄面皮とかという言葉はそれ自身ただちに一つの性情をあらわしているのである。身体は衣服によつて覆われるが、われわれは顔を隠すことができない。たとえ顔をそむけ、面を伏せても、そむけられ伏せられた顔がすでに一つの顔なのである。人は自分の顔が眼に入らないというただそれだけの理由で、自分は顔にあらわれているようなものではないと考え、顔以外のところに別の自分がいると思つているが、そういう思いもまた顔にあらわれるのである。いわば人は他人の眼からもつとも慎重に隠すべきもの、もつとも慎重に隠しているもの、もつともあらわな形で四六時ちゅう人びとの前に曝^(b)しているのである。面を曝すという言葉はすでに衆人の前で恥辱を受けることを意味しているが、しかし顔を曝していない人はないのである。

それゆえに顔は隠されなければならぬ。帽子というものもかつては顔を飾るよりも顔を隠すためにあつたのであろう。飾ることはすでに隠すことにほかならない。そして全身を覆っていたヴェールが一方においては帽子として頭部におしあげられ、他方において衣服として肩からかけられたとき、人びとはすでに仮面を發明していた

のである。しかしギリシャ・ローマの俳優たちの用いた仮面は、顔を隠すためよりはむしろ、広い野外劇場の観客のために顔をよくあらわすためのものであった。この場合、あらわすものという顔の本質は仮面によって逆に保証せられたのである。わが国に伝わった伎楽面(注1)・舞楽面においても事情は同様であった。それは人間の矮小卑賤な顔を隠して神々の姿をあらわすものであると同時に、激発する感情の瞬間的誇張的な表現であった。それらの影響のもとに発生してきた能面が瞬間的激情の表現にまずその卓越した技術の領域を見出したのは当然であろう。しかし神々ではなく日常的な人間が舞台上に登場してくるにつれ、瞬間的表情的誇張的表現はかえって表情の固定化を結果する。鎌倉時代から室町時代にうつり、日常の生活が多く舞台上に上せられるに随したがつて「尉面(注2)」が完成を見、ついで「女面」「男面」の象徴的表現がこの幽玄の芸術をフキユウ(注1)のものとした。(いうまでもなく、能はその成立の当初から神怪鬼畜とともに老人や女や男を登場させていたのであるが、いまは単に類型としての面の技術的完成について語っているものであり、それはまた能そのものの発展深化と表裏をなしているのである。) 神鬼畜の面が激発する感情の瞬間的誇張であったのに対し、尉面の親しみ深い老人の顔はいちじるしく写実的である。それは瞬間の表情ではなく平常の顔であり、誇張ではなく写実である。しかし単なる写実はいわば面の否定であり、個性の否定であり、複雑な感情の変化には堪ええない。尉面が多く、神社の来歴を物語ったり、名所を教えたりするような説明的な役柄に用いられるゆえんである。女面においてはそうではない。これは誇張でもなく写実でもない。それはいかなる表情をもたないことによつてあらゆる表情をもつており、いかなる顔にも似ていないことによつていかなる顔にでもなることができる。表現はただ一つのものをあらわすが、象徴は隠すことによつていつさいをあらわすのである。そしてこれはまた顔の本来のあり方にほかならない。女面においてその最高の象徴性に達した能面は、その象徴性によつて、いわば顔そのものの象徴となつたのである。

したがつて喜怒哀楽を顔にあらわしてはならぬ。興奮した顔はつねに醜いのである。それは単に受動的な顔であり、内面を失つた外面にすぎない。すぐれた精神は顔の奥深くに自らを秘めながら、しかもその奥深いところから微妙な均衡をもつて顔を支えている精神であり、絶えず誇張し動揺する表情は浅い精神のシヨウウサ(注1)である。

微笑が美しいのもこのゆえである。

(矢内原伊作「顔」による)

(注) 1 伎楽面・舞楽面——伎楽(古代日本の無言假面舞踊劇)と舞楽(舞を伴う雅楽)でそれぞれ用いられる仮面。

2 尉面——老翁の相を表す能面。

問

- (A) 線部(イ) (ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)
- (B) 線部(a) (b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。
- (C) 線部(1)について。ここに込められている筆者の考えはどのようなものか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。
- 1 人びとは、人間はそれぞれ異なった顔を持ち、その違いをお互いに識別できると思っているが、実は自身自身の顔さえどのようなものかわかっているわけではない。
 - 2 人びとは、人間がそれぞれ唯一無二の存在であるように、その顔も異なっているという事実を認識しているが、そのこの意味を掘り下げて考えようとしていない。
 - 3 人びとは、写真に写る顔が過去のある一瞬のものでしかなく、鏡に映る顔も物質的な表層が反映されているだけなのに、それらの虚像を本当の顔と思いついでいる。
 - 4 人びとは、自分の顔をあたかも自分自身とは別の対象物であるかのようにして、それを所有したり視覚的に捉えたりできると思い込んでいるが、実際はそうではない。
 - 5 人びとは、表面的にはそれぞれが違う顔をもっていることを単なる事実として受けとめているだけに見えるが、無意識では自分の顔に愛着や恐怖の感情を抱いている。

(D) 空欄 にはどのような言葉を補ったらよいか。最も適当な語句を本文中の空欄と同じ段落から抜き出し、六字以上十字以内で記せ。

(E) ——— 線部(2)について。「顔が人なのである」とはどういうことか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 自分の顔は自分自身から独立した持ち物や道具ではなく、自分という人間の身体と不可分である。
- 2 手や足は物の部分を表わす比喻として使えるが、顔はそれこそが人間の本質を意味する点で異なる。
- 3 その人がどのような人間であるかが、他者との関係のなかで目に見えるものとして顔にあらわれる。
- 4 顔についての慣用語が非常に多いという事実が示しているように、顔は人間にとって本質的である。
- 5 顔はその中に人間の心を包んでいる薄い皮であるため、内側の心が透けて見えることが頻繁にある。

(F) ——— 線部(3)について。ここに列挙されている言い回しと「顔」の慣用語表現として共通する意味を持つものはどれか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 顔が売れる
- 2 顔を貸す
- 3 顔が広い
- 4 顔を染める
- 5 顔を利かす

(G) ——— 線部(4)について。筆者の考えによれば、ここであらわされる「いっさい」のものとは何か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 瞬間的な激情
- 2 日常の個性的な表情
- 3 顔それ自体の本性
- 4 能面の表現性
- 5 精神の深い働き

(H) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ 写真は機械が作る像なので、人と人との関係のなかに出現する本当の顔を捉えることはできない。
 - ロ 心も内面という面であるように、鉄面皮という言葉があらわしているのはそのような性質の心である。
 - ハ 能面が超自然的な存在ではなく世俗の人間の多様性を表現できた結果、能は芸術として完成した。
- 二 瞬間的表情を誇張する仮面も日常を写実する仮面も特定の感情しか表現しない点で芸術的限界がある。

ホ 喜怒哀楽の感情を意志によつて制御し、それらを能動的に表現できることが優れた精神の特質である。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

いじわるばあさんの登場は、おそらくは作者の生涯における一つの危機⁽¹⁾に根ざしている。

^(注)長谷川町子の家庭はキリスト教に早くから入っていたが、若いころの彼女は、あまり熱心な信者ではなかった。牧師がたずねてくると、相手をするのは、もっぱら母親であり、町子は、深刻な話題をさけて、便所にかくれたりした。

苦しいことがあれば、お風呂に入るといのが、若いころの特効薬だったようだ。しかし二十数年も、助手にたすけられることもなく毎日、漫画をかきつづけるというのは、たいへんな仕事だ。お風呂などではなかなか気分転換がはかれず、途中で、スラムプにおちいって、他の人のくらしかたがうらやましく思える時もあったらしい。四十の坂にかかり、作品の上では二十代の主婦に感情移入して毎日活躍していても、そこにもりきれない感情があつて、作品がそのまま自分を解放するという幸福な状態ではなくなった。一九六〇年代の高度成長の時代に育つた若い日本人の風俗からはじきだされた中年の女性として、⁽²⁾コドク感をあじわうようになった。

自分にもつとも忠実な弟子であるグチ⁽³⁾ヨクなペテロにたいしてさえ、あすの朝にわとりが鳴くまえに、おまえはわたしを三度うらぎるぞと言ったイエス・キリストの皮肉なまなざしを、彼女は、戦後の日本にたいしてむけるようになった。『いじわるばあさん』にはそういう視点がある。そして、みずからの独身中年女性としてのおきざりにされたいやな感じを、ひととびに中年から老年にむかってさらにはげしく変身させることをとおして(もつとも「エプロンおばさん」という中年女性を主人公にした作品もあるが)、もつとにつめてゆき、自分をおきざりにした社会にたいする攻撃に転じた。

□、この時になつても、作者は、サザエさんをすてて、いじわるばあさんにおもむいたのではない。あくまでも、サザエさんといじわるばあさんの二人三脚で、戦後の日本社会に對している。いわば、⁽²⁾ここには、戦後の民主主義についての当事者としての渦中の論理と、⁽³⁾列外におかれたものとしての傍観の論理との合作がある。

もちろん、サザエさんといじわるばあさんの兩人をくみあわせても、それでもとらえられない戦後日本の問題はたくさんある。たとえば、サザエさんのおとうさんは、おそらくは、十五年間の戦争に何かの仕方でも関わっていたのだろうが、このおとうさんはみずからの戦争体験をかたることがない。サザエさんの夫となった人も、おそらくは兵士として動員されたことのある人なのだろうが、その立場から何かをのべたということがない。つまり、この「サザエさん」(二十代)——「エプロンおばさん」(五十代)——「いじわるばあさん」(七十代)のすべての主要作品を通じて、作者は、女性の側からのみ、日本の社会の問題をとらえている。

④ こういう見方は、国家の運営をまかされたと感じている官僚の考え方とはずいぶんちがうものだし、その官僚を抽象的原則によって批判する学生の考え方もずいぶんちがう。

ひとりものの学生の時だけは急進的な立場をとって権力を批判し、家庭に入ると急に古いこんで権力に同調的になるといふ一般的傾向とは、かなりちがうコースを、「サザエさん」は示している。家庭内での助けあいと対等の倫理をひろく社会に適用することを求めるといふ立場について、「サザエさん」は戦後をつらぬいている。大学でも、総合雑誌でも、戦後民主主義は評判がわるいが、「サザエさん」をとりあげて読みはじめると、戦後民主主義が色あせずにここにあることを私は感じる。政界や論壇の戦後民主主義の代表者の議論のように色あせて見えないのは、それが生活のスタイルをとおしてうったえる戦後民主主義の理想であるからだ。

「サザエさん」の家庭が、今の日本で大勢をしめている核家族だけだとおすという理想につかず、三世代一緒にくらすという姿勢をつらぬいているところに、この作品が、おもに家庭内の話題をとりあげながらも、社会批判としての側面をうしなわなない理由があると思える。

サザエさんの家庭では、父親はいつも、彼なりによくやっていると認められているものの、⁽⁵⁾たいして偉い人とは思われていない。彼が、サザエさんよりも背丈が小さいのも、その象徴としての意味をもっている。戦前の日本は、天皇が日本人全体の父親であるように、家庭では父親がたてられているというふうに教えられていた。このようにして国家は一つ一つの家庭ぐるみに日本全体をとらえるしくみになっていた。しかしサザエさんの家

庭のように、父親が誠実だが無力な小さい人となり、一家のむすびつきはむしろ母親と長女をとおしてなりたっていることが家庭全体に公認されている時、そこでそだった感覚を社会全体にたいして応用すると、日本の国家は、どうなるのか。イソノ家としては墓まいりには行くものの、自分の家が未来にたいしてもつ万世一系性などを信じてはいない。自分の家にたいするこの感じ方が、国家にむけられるとどうなるのだろうか。

「サザエさん」の思想に共感をもつ人びとにとつては、政府の命令一つで私生活をギセイ(り)にして何でもするという気にならないことはたしかだ。

「サザエさん」は、日本の国家の統制力がゆるんだ敗戦直後の時代にうまれた。この時代には、家庭は、ただあたえられたものをえらんで買ってきてたべるといふことでは経営できない。家庭菜園で食糧をつくり、それでも足りないから、法律をやぶって足りない米のおぎなひをつけるための闇買ひまでしなければならぬ。町でうっていないさまざまのものを、(注2) タドンから衣類にいたるまで自分でつくらねばならない。家庭は消費の場であるだけでなく、生産の場でもあった。その敗戦直後の気風は、「サザエさん」の作者の家庭の中でも二十数年のあいだにうすらいでゆくが、しかし作者たち三人の姉妹があいよつて「姉妹社」という出版社をつくつて流通機構の管理をつづける中で、長谷川家には、消費本位の家庭にもどることのない戦後の多面的な家庭の気風が今日もなおのこっている。このことがおそらくは、「サザエさん」の中に、高度成長時代の日本の家庭から見れば一時代おくれた家風をのこしている原因であり、それは時代おくれであるとともに、(6) 現代の実際の家庭にたいして、戦後の理想を説くという理想主義的な役割をあたえている。

(鶴見俊輔「漫画の戦後思想」による)

(注) 1 長谷川町子——日本初の女性プロ漫画家(一九二〇—一九九二)。

2 タドン——木炭や竹炭の粉末を団子状にして乾燥させた燃料。炭団。

問

(A) 〓〓二重線部(イ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書かいしよで記すこと)

(B) 線部(1)について。ここで書かれている作者の「危機」とは何に根ざしていると考えられるか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 キリスト教の熱心な信者ではなかったこと。
- 2 二十数年も漫画をかきつづけることはたいへんな仕事であり身体的にも精神的にも疲弊していたこと。
- 3 漫画家として才能の限界を感じるようになったこと。
- 4 四十の坂にかかり、いつまでも二十代の主婦(サザエさん)に感情移入していられなくなったこと。
- 5 若い人たちの感覚とのギャップからつよい疎外感を覚えるようになっていたこと。

(C) 空欄□にあてはまる接続詞はどれか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 そのため
- 2 なぜなら
- 3 もちろん
- 4 ところで
- 5 しかし

(D) 線部(2)・(3)について。戦後の民主主義についての「渦中の論理」と「傍観の論理」を象徴するのはそれぞれ誰になるか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 「渦中の論理」：サザエさん、エプロンおばさん、いじわるばあさん
「傍観の論理」：作者(長谷川町子)
- 2 「渦中の論理」：エプロンおばさん
「傍観の論理」：いじわるばあさん
- 3 「渦中の論理」：いじわるばあさん
「傍観の論理」：サザエさん
- 4 「渦中の論理」：作者(長谷川町子)
「傍観の論理」：サザエさん、いじわるばあさん

5 「渦中の論理」：サザエさん

「傍観の論理」：いじわるばあさん

(E) 線部(4)について。「こういう見方」として合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 「サザエさん」や「いじわるばあさん」にみられる日常的な生活観や社会に対する考え方。

ロ みずからの戦争体験は家庭内で日常的に語りつがなければならぬという考え方。

ハ 官僚は国家の運営に責任をもつべきだしそのことを批判するべきではないという考え方。

ニ 家庭に入れば現実的な考え方となり、権力に同調することはしかなかったという考え方。

ホ 日常生活において家族が協力するといった価値観は社会に対しても適用されるといふ考え方。

(F) 線部(5)について。サザエさんの家庭では、父親は「たいして偉い人とは思われていない」とあるが、その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 戦前の日本社会において、家庭では父親がたてられると教えられてきたが、戦後はその価値観が変わった。

2 サザエさん一家の結びつきはむしろ母親と長女の結びつきで成り立っており、父親の存在が小さかった。

3 サザエさん一家の結びつき方は、戦前の家父長制とは相いれず、戦後民主主義に通じるものがある。

4 サザエさん一家では女性が活動的なので、父親が家庭内で役割を果たす機会が少なかった。

5 戦後の日本社会において、父親が偉いと思われるためには社会的地位の上昇や経済的成功が必要である。

(G) 線部(6)について。「現代の実際の家庭にたいして、戦後の理想を説く」とあるが、ここでの「理想」として合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 敗戦直後のように家庭菜園で食糧をつくるなど、食糧自給できる家庭。

ロ 食糧や日用品を単に消費するだけでなく、さまざまなものを生産しながら生活する家庭。

ハ 父親や夫がサラリーマンとしてはたらく、母親など女性は専業主婦として生活する家庭。

二 敗戦直後の物資不足から解放されて、豊かな消費生活を享受できる家庭。
ホ 消費本位でない多面的な気風がのこる家庭。

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

昔、如幻僧都といふ人おはしけり。もとは奈良の京、東大寺に住みて華嚴宗をぞならひ給ひける。そのころ、善珠大徳、(注1)学問の功高くて、眠りを除き飢ゑをしのびて見えければ、時の人もいみじきことに言ひあへりけり。僧都これを見て、「我いかに学問すとも、この人にまさるべからず。(2)」(注2)この道を改めて、一筋に行ひの道に赴きて、この人よりは先立ちて、世の聞こえをも取り、位をも上がらん」と思ひて、熊野に籠りて、身を碎き骨を折りて、一筋に行ひ給ひけり。

かかる程に、傍らに我が行ひを五つ、六つ重ねたらんほどに行ふ者ありけり。これを見て、「あさまし」と思ひて、「さても、かくして世の中にありては、つひにはいかなるべきぞ」と思ひ続けるに、いとあぢきなくよしなくて、やがて走り出で給ひにけり。

さて、播磨の国、高和谷といふ所におはして、他事なく後世の行ひして、常には心を澄まして、華嚴経をぞ読み給ひける。(注4)

かかる程に弟子にならんとて、人あまた出で来集まりて、後には本意なきほどに侍りければ、離れたる所にあやし(6)の庵かまへて、ただ一人ゐて、食ひ物なども自ら営みて、弟子をば時々ぞ来させける。(7)

ある時、「今七日ばかりはきびしき行ひをすること侍るべし。ゆめゆめ来ることなかれ」とありければ、その程、人行きかふことなかりけり。日ごろ過ぎて、庵のほどに、いひしらぬ匂ひの侍りければ、あやし(9)くて見ければ、手を合はせて西に向ひて、命尽き給ひにけるなるべし。その年は六十二、頃は十二月二日にてぞ侍りける。観音を本尊にし給ひけるとかや。(10)

かの播磨の高和谷に、絵に描ける御姿のおはするは、木の下に石を敷き物にて、檜笠と経袋とばかり置き給ひたる姿とぞ聞き侍りし。発心の初めより命終まで、澄みて覚え侍り。

(『閑居友』による)

(注) 1 学問——ここでは、仏教の教理を究める学問をいう。

2 行ひの道——ここでは、修験道のこと。山に籠って厳しい修行を行う。

3 熊野——修験道の修行の場として有名であった。

4 後世の行ひ——来世での救済を祈る勸行しんぎょう。仏教の輪廻転生の思想に基づく。

問

(A) ——線部(1)から読み取れる人々の気持ちとして最も適当なものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 賛嘆
- 2 軽侮
- 3 同情
- 4 遠慮
- 5 羨望

(B) ——線部(a)と(c)の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを一つずつ、左記各項の中から選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

- 1 受身
- 2 可能
- 3 尊敬
- 4 打消
- 5 存続
- 6 意志
- 7 婉曲
- 8 命令

(C) ——線部(2)は何を指すか。本文中から適当な語句を三字以内で抜き出して答えよ。ただし、句読点は含まない。

(D) ——線部(3)の意味として最も適当なものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 権力
- 2 常識
- 3 反応
- 4 風説
- 5 名声

(E) ——線部(4)の表す心情の説明として最も適当なものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 近くに住む僧が厳しく修行する様子を見て驚嘆した。
- 2 仲間の僧がとても熱心に修行する様子を見て奮起した。
- 3 他の僧が自分の修行方法をまねしたことに立腹した。

4 自分以外に修行僧が何人もいることにあせりを感じた。

5 他の僧が次々と修行に参加してきたことに嫌気がさした。

(F) 線部(5)の表す心情の説明として最も適当なものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 現世での生活をいとわしく思った。

2 仏の教えを信ずる気持ちが揺らいだ。

3 熊野の地を早く離れたいと願った。

4 仲間の僧と別れて一人になりたかった。

5 自分自身の学問の才能に限界を感じた。

(G) 線部(6)の意味として最も適当なものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 徐々に 2 何度も 3 再び 4 すべて 5 数多く

(H) 線部(7)の意味として最も適当なものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 心を乱す 2 意に反する 3 心遣い^{づか}に欠ける 4 思いがけない 5 熱意を失う

(I) 線部(8)の意味として最も適当なものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 不思議な 2 粗末な 3 風流な 4 珍しい 5 目立たない

(J) 線部(9)を、十字以内で現代語訳せよ。ただし、句読点は含まない。

(K) 線部(10)について、この「西」に最も関係の深いものを一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

えよ。

1 生者必滅 2 仏道修行 3 因果応報 4 極楽往生 5 諸行無常